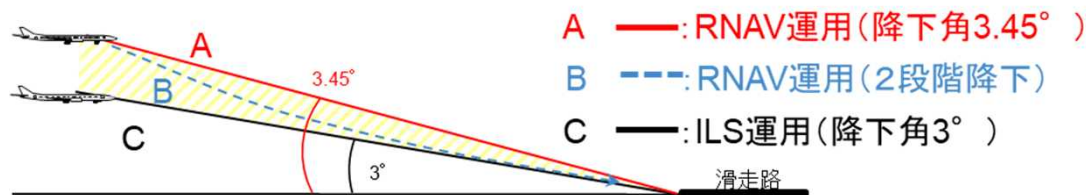


夏場における新飛行経路の運航の実態について

騒音影響軽減のための飛行高度引き上げ

- 騒音影響の軽減を図るために、南風好天時には新到着経路の降下角を 3° から 3.45° にできる限り引き上げることにより飛行高度を引き上げている。



新飛行経路の運航状況(2020年11月末時点)

- パイロットは計器の高度を確認しながら降下しており、気温が高い夏場には計器の高度より実際の高度が高くなるため、降下角がより大きくなる傾向にあるものの、これに伴う
 - ・着陸のやり直し(ゴーアラウンド)は発生していない。
 - ・ハードランディング発生 の報告はない。
- また、安全上の支障を及ぼす事態の報告※について、新飛行経路を飛行した航空機から降下角の引き上げに起因する事例の報告はない。

※航空法第111条の4に基づき、航空会社が航空局に行う報告。

パイロットと航空管制官からの意見

- 6月中旬から9月中旬にかけて、新到着経路を実際に飛行したパイロット(本邦7社)及び航空管制官と意見交換を実施し、安全上問題なく運航できていることを確認した。

【主な意見】

- ・新飛行経路での進入について、現在のところ問題無く実施できている。
- ・高温時等の場合、二段階進入の選択肢も用意されており、問題なく実施できている。
- ・二段階進入を活用した進入を行っており、十分に安定した状況で着陸できていた。
- ・春先に比べて、気温が高い夏場は降下率が大きくなるため、計器を注視する必要があったが、大きな問題なく着陸できていた。
- ・気温が高いことによる大きな課題はないが、高気温と横風、背風、悪天等が重なった場合に運航の難易度があがるので、気象状況を考慮した対応が必要である。

- なお、出発経路に関しても航空会社から特段の安全上に関する問題の報告は受けていない。